

シロサポテの栽培について

野村 哲也

はじめに

シロサポテ (*Casimiroa edulis* Llave et Lex) は、ミカン科の常緑亜熱帯果樹である。原産地は、メキシコ、グアテマラなど、中央アメリカの標高1,000~2,000mの冷涼な高地であり、-5℃まで耐えうる耐寒性を有している。指宿植物試験場の年平均気温は18.3℃であり、冬季の最低平均気温は5.3℃、最低極温は-4.0℃である。

1960年にハワイより当场にシロサポテの種子が導入され、その実生木が標本木として無加温ハウス内で30数年間栽培されてきた。しかし標本木は品種も分からず、着果は極めて稀でありこの果樹は指宿での露地栽培、あるいはハウスの無加温栽培が可能ではないかと考えられ、1993年より新たな試験栽培を始めている。

現在までに約40品種導入され、それらの内、数品種では、一昨年より露地で開花が始まり、昨年は結果するに至った(第1表)。

シロサポテは、世界的にみても経済栽培を行っているところは少なく、大変珍しい果樹であり、今後発展の可能性は高いと思われるので、その性質や栽培について報告する。

シロサポテの特性

標高は15~18mに生長する常緑樹で、葉は小葉3~7枚の掌状複葉で、葉色は暗緑色、光沢がある。花序は前年生枝の葉えきに15~100花を総状に着ける。指宿での開花は10月から3月頃までである。花は、子房上位の両性花で、子房の大小により三花型に大別でき(第1図)、子房小形の品種、系統は花粉用としても利用できる。品種・系統により自家受粉及び他花受粉があり、ハエ、ミツバチにより結果率が増加し、果実品質は高まるとされる。

果実は、横4~12cm、オレンジ形又は扁平形の液果で、果皮は薄く、成熟すると緑色又は黄色を呈する。収穫期は7~11月である。

成熟果の果肉は、淡黄色又は白色であり、柔軟で極めて甘く、糖度は、Brix 18~29%である。種子は、果肉量に比べ比較的大きく、やや固めの骨様の内果皮内にあり、1果に1~5個を含有している。

栽培について

繁殖：実生、挿し木及び接ぎ木で行なう。

結果までに7~8年を要する実生由来の株よりも、接ぎ木繁殖が効率的である。当场では接ぎ木の台木には共台を利用し、接ぎ木由来の株は接ぎ木後2年目より結果がみられ、挿し木は現在、枝のどの部位を使用し、どの時期に挿せば良いかを検討している。また実生の発芽は、内果皮を剥いた方が、そうでないものと比較して発芽が2週間も早いことが明らかとなった。

開花・結実：指宿における開花は10~3月頃であり、同一品種、同一樹の中でもかなりバラつきがみられる。また、品種によって結実にくいものもあり、これらは受粉樹として用いた方が良いと思われるものもある。開花から収穫まで要する期間は約8~9ヶ月で収穫期は7月~11月頃であり、台風の被害に遭う恐れがある。シロサポテは収穫後に追熟するタイプの果実であるため、収穫的期の判定が難しい。本来、収穫期が近づけば果色が退色するといわれているが、退色した後も追熟が進まず、果実が軟らかくなったときには、果皮に皺がより、糖度が高くない場合があり、今後は収穫期の見極めについても調査を行なう必要がある。

果実の糖度は最低でもBrix 18%で、最高はBrix 29.9%であった。栄養成分では、カルシウム、リン、鉄分に富んでいる。果肉は黄白色で、香は無く、クリーム状で、スプーンですくって食べる様な液果である。品種によっては、果皮の近くの果肉部に苦みがある。

整枝・せん定：主幹形又は開心形に仕立てるのが良いと思われる。枝は品種によって下垂するものがあるので地表面に結果後の枝が着かないように切り返したり、吊ったりすることが必要である。又、徒長枝の発生しやすい品種もある

品種によっては、果皮の近くの果肉部に苦みがある。

整枝・せん定：主幹形又は開心形に仕立てるのが良いと思われる。枝は品種によって下垂するものがあるので地表面に結果後の枝が着かないように切り返したり、吊ったりすることが必要である。又、徒長枝の発生しやすい品種もあるので、立ち枝はせん去するか、取り木をかけてからせん去する。なおせん定の時期については今後の課題である。

病気・害虫：栽培を始めて現在までに病気は確認されていないが、今後、栽培面積が増加することにより発生することも考えられる。害虫では、カイガラムシ、カタツムリによる食害が確認された。

今後の課題

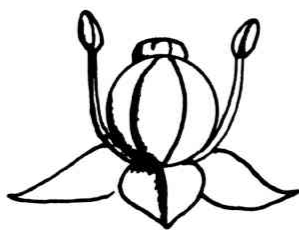
テレビや新聞で紹介されたことにより、全国各地から苗の販売について、かなりの問い合わせがあった。今後適性品種を見極め、苗の生産を行う計画である。

栽培を始めて5年程経ち、生育も安定しつつあるので、適応性のすぐれた優良品種の選別も行なう必要がある。前述のように、収穫適期の判別が難しく、現在、硬度計を使用して収穫適期の判定調査を行っているが、十分な結果が得られないので、果皮色の変化や着果後の期間、積算温度などについても検討していきたい。

最後に、指宿地方でも露地栽培が可能ということが明らかとなったので、近隣の果樹農家の人達に、苗を分けて、将来的に暖地でのシロサポテの産地化にむけて努力していきたいと思う。

第1表 指宿植物試験場で開花、結実した品種（1997）

タイプ	品 種 名
1	クシオ ラマーツ チェスナット パイク サラダ グェン マリブー-1.3 ケイト
2	フィエスタ プリチャード ホホワイト フォールブロック パーノン
3	開花、結実の確認されていない。



タイプ1
子房、柱頭大形、やく小形



タイプ2
子房、柱頭小形、やく大形



タイプ3
子房、柱頭、やく共に大形

第1図 品種による花型の違い